

ふくしま歴史資料保存ネットワーク

2011年の東日本大震災・福島第一原発事故、2019年の東日本台風、2021年の福島県沖地震に加え、2022年にも福島県沖地震と、頻発する大規模災害により、歴史資料が散逸・消滅の危機にさらされています。今年もふくしま史料ネットは県内各地で歴史資料保全活動に取り組んでいます。

3月の福島県沖地震にともなうレスキューに取り組みました

2021年2月に続き、2022年3月にも震度6強の地震で大きな被害が出ました。

前年と同様に宮城ネットと連携し、南相馬市鹿島区で戸別訪問調査を実施しました。

5月には飯舘村の神社で、被災した蔵の中から、2013年4月の火災で焼失したとされていた資料類を救出しました。このうち文書類は福島大学で一時預かりし、整理作業を続けています。



『福島民報』
2022年5月30日



再建された。今回、資料を運び出した土蔵は火災の被害を免れた。

山津見神社の資料撤出
飯舘村 本県沖地震受け 歴史ネット

三月に発生した本県沖地震を受け、ボランティア組織「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」は二十九日、飯舘村の山津見神社で歴史資料の撤出作業に取り組んだ。

阿部浩一 福島大行政学 策学類教授をはじめ、黒伸一 明宮城東村田町歴史みらい館館長ら十五人程度が参加した。地震で壁などが損壊した土蔵から古文書や美術品、武具などを運び出す。阿部教授は「未指定文化財の保護は民間の支援が不可欠。活動を通じて、地域の歴史文化を継承する重要性を広く発信していきたい」と話している。

山津見神社は一〇五一（永承六）年の創建で、オオカミ信仰の拠点として知られている。二〇一三（平成二五）年に全焼したが

中央奥の土蔵から資料を運び出した阿部教授（左）ら

そうま資料ネットの設立と活動を支援しています

同じく被害の大きかった相馬市では、地元有志を中心に、そうま歴史資料保存ネットワークが立ち上がりました。詳しくは、そうま資料ネットのポスター発表をご覧ください。



歴史資料散逸防止

相馬市内の民家から撤出した「そうま」の内部を撮影する専門家。右端は阿部教授、右から二人は鈴木さん

相馬市の歴史資料保存活動が、震災後、大きな課題となってきた。市内の歴史資料が、震災で散逸する恐れがある。市民有志が、歴史資料の散逸防止を目的として、そうま歴史資料保存ネットワークを設立した。ネットワークは、市民有志を中心に、歴史資料の散逸防止を目的として、市内の歴史資料を調査・整理し、保存する活動を行っている。ネットワークの活動は、市民有志の協力によって、市内の歴史資料の散逸防止に貢献している。

相馬市市民有志 保存組織を設立

相馬市市民有志が、歴史資料の散逸防止を目的として、保存組織を設立した。組織は、市民有志を中心に、歴史資料の散逸防止を目的として、市内の歴史資料を調査・整理し、保存する活動を行っている。組織の活動は、市民有志の協力によって、市内の歴史資料の散逸防止に貢献している。

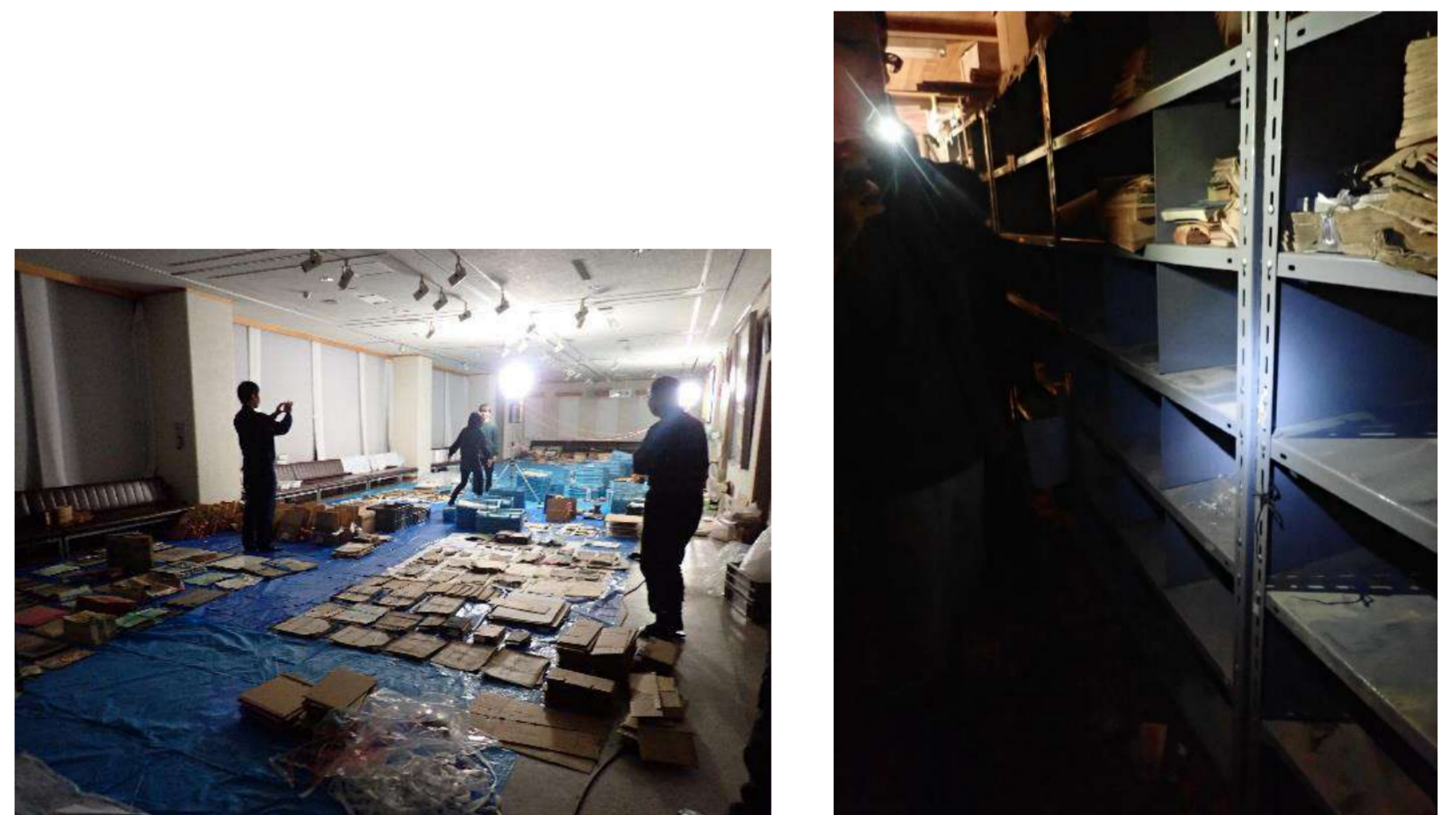
『福島民報』2022年6月12日

2019年東日本台風での水損資料の処置を継続しています

2019年10月に日本に上陸した令和元年東日本台風の影響で、福島県内各地にも甚大な被害が発生しました。ふくしま史料ネットをはじめ専門機関とボランティアが連携して被災資料の安定化作業に参加し、現在も作業は継続して行われています。

その中でも、福島県本宮市で被災した水損文書の一部は、乾燥剤凍結乾燥法と称した新たな乾燥方法を試用しています(図1参照)。

乾燥剤凍結乾燥法は、特殊な機器や薬品を使用せず作業手順も単純な乾燥方法として開発を進めている方法です。乾燥には長期間が必要(約8mm厚冊子で約2年間)というデメリットはありますが、冷凍庫に入れておくだけでページ同士の固着もなく乾燥が可能で、脱臭効果もある画期的な方法であり、実用化に向けた研究を進めています。



水損文書における乾燥剤凍結乾燥法の活用手順

キッチンペーパー、ペット用タオルなどで水分をふき取る

シリカゲルを不織布等(お茶パック、洗濯用ネット、排水口のゴミ取ネット等)に入れ、資料と共に密閉袋に入れる

-20℃に設定した冷凍庫にて乾燥

図1) 水損文書における乾燥剤凍結乾燥法の活用手順